

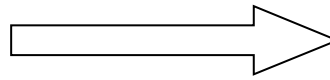
新規就農者の育成

要約

就農希望者には、技術の習得や営農地の確保、資金調達を含めた就農計画作成等の支援を行い、就農後は栽培技術講座や交流会を開催し、併せて巡回指導を行うことで、技術向上と仲間づくりの支援を行った。これにより新たな就農者を7名確保することができた（現在、他に3名の就農計画作成指導中）。

現状(背景)と課題

- ・新規就農者が増え、担い手として期待が高まっている。
【H28新規就農者 10名】
- ・就農希望者の多くが、農地・資金・技術・経営ノウハウ等が不足している。
- ・就農後は、より速やかな課題解決により、経営安定させる必要がある。
【H29当初 指導対象者 54名】



目標

- ・新規就農者の確保：11名

実績

- ・新規就農者の確保：7名

活動内容

- ・就農希望者に対して、関係機関と連携して技術・農地・資金確保とあわせ、就農5年目までの就農計画作成を支援した。
- ・就農後は、主な品目ごとに少人数制の栽培技術講座を開催して技術習得支援するとともに、担当者をつけて定期的な巡回による現地指導を行った。
- ・POP作成講座はパソコンを使った実践的な講座として実施した。

成果

- ・新規就農者 7名、就農計画認定：8名
- ・栽培技術講座：イチゴ4回、ブドウ・イチジク・土づくりを各1回開催、延べ36名参加
- ・巡回指導：就農時45歳未満もしくは認定就農者で、就農から5年未満の53名（45名+29年度途中に就農した8名）
- ・現地見学会と意見交換会：14名参加
- ・イチゴ現地研修会：16名
- ・POP作成講座：14名参加



現地視察研修会の様子



POP作成講座の様子



意見交換会の様子

普及活動のポイント

- ・就農相談活動は、相談者の状況にあわせた個別対応とし、内容や進捗状況に応じて関係機関との連携を密にした。
- ・指導対象とした新規就農者には担当者が継続して巡回を行い、係内で個々の営農状況や課題などの情報を共有した。また、問題点があれば、栽培技術講座で取り上げた。
- ・ワンストップ窓口の相談から就農まで個別の対応となるが、関係機関で情報共有に努めるとともに、就農後1～2年の対象者を特に重点的に指導した。
- ・講座や現地見学会などの集合研修開催時には新規就農者相互に情報交換ができるように配慮した。

対象の変化

- ・就農希望者のうち新たに7名が就農し、営農を開始した。
- ・栽培技術講座や巡回指導等を通じて、技術向上が図られている。

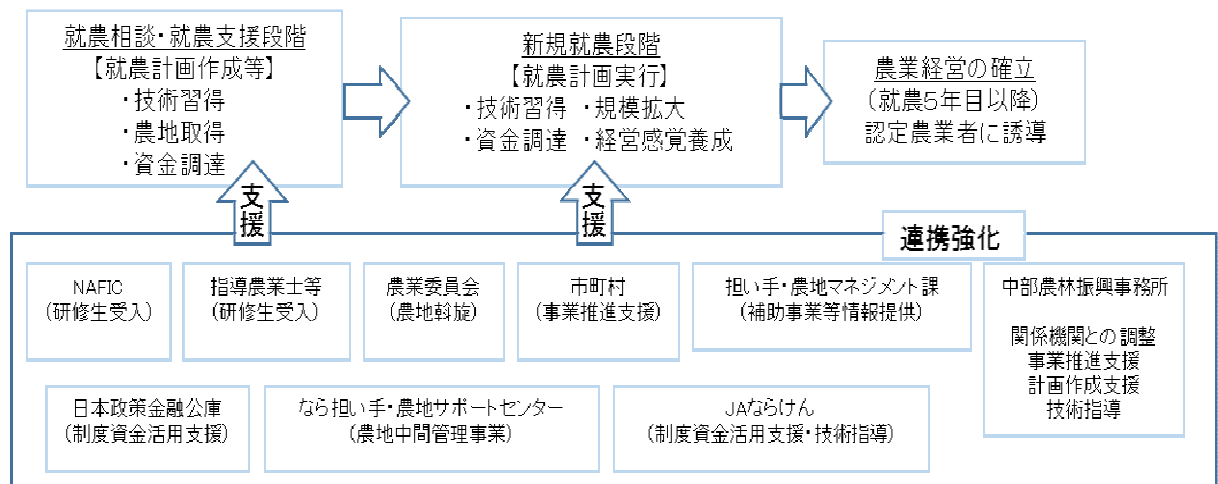
対象者からのコメント

- ・イチゴ技術講座は作業時期ごとに開催されたので、理解しやすく、すぐ活用することができた。
- ・現地見学会と合わせて開催された意見交換会では、横のつながりづくりができた。

これからの活動ビジョン

- ・より効率的な就農支援を行うため、関係機関との連携を一層強化。
- ・就農5年目までのフォローアップでは、就農後1～2年の対象者は特に技術向上を、就農後3～5年の対象者には就農計画に沿った農業経営の展開を重点的に支援する。

活動体制



用語解説

新規就農者

就農後5年未満の者。特に45歳未満で就農したか、青年等就農計画等を作成・認定された人を指導対象とした。

POP (ぽっぷ)

商品名や価格、キャッチコピーやイラストなどを描いて顧客にアピールするための広告媒体のひとつ。紙を媒体にして手書きで作成することができ、手軽に取り組める。